



第1回 EAS 経済大臣会合
2012年8月30日
カンボジア・シェムリアップ

共同声明（仮訳）

1. 2012年8月30日にカンボジアのシェムリアップにおいて、EAS 参加国の経済大臣、すなわち10のASEAN各国の経済大臣並びにオーストラリア、中華人民共和国、インド、日本、大韓民国、ニュージーランド、ロシア及び米国は、第1回 EAS 経済大臣会合に参加した。会合では、カンボジアのチャム・プラシット商業大臣が議長を務め、東アジア地域に影響を及ぼすグローバル及び地域的な課題及び EAS 域内の経済協力の発展について意見交換を行った。
2. 閣僚達は、ロシア及び米国が EAS 経済大臣会合に参加したことを歓迎し、EAS 経済協力の強化に繋がることを期待した。
3. 閣僚達は、EAS への参加18か国の GDP は世界の GDP の約半分を占めることを留意した。閣僚達は、ASEAN のプラス8か国との総貿易額が1兆270億ドルに達する20.7%増加を記録し、ASEAN からプラス8か国への輸出が23.3%増加し、5,418億ドル（2010年：4,395億ドル）に達し、輸入は17.9%増の4,853億ドルに達したことを評価した。プラス8か国は、ASEAN の総貿易額の43%の割合を占めた。
4. プラス8か国から ASEAN への海外直接投資は、主にグローバル及び域内の経済・金融面の不確実性から、2010年の503億ドルから469億ドルへと6.7%微減した。にもかかわらず、プラス8か国から ASEAN への海外直接投資は、総投資額の半分以上の割合を占めた。
5. 閣僚達は、第1回 EAS のクアラルンプール宣言において、EAS がこの地域における共同体の形成に重要な役割を果たし、進化する地域枠組みの不可分の一部を形成するとして総意を想起した。閣僚達は、EAS において ASEAN が、その他の参加国との関わりにおいて中心的な存在として重大な役割を担っていることを確認した。閣僚達は、貿

易および経済協力が東アジア地域の成長に重要な役割を果たしていくことを強調した。

東アジア・ASEAN 経済研究センター (ERIA)

6. 閣僚達は、ERIA による活動の進展を歓迎し、その活動が、中小企業、エネルギー、環境、貿易・投資、インフラ開発を含む幅広い活動及び ASEAN 経済共同体ブループリントの中間レビューや AEC スコアカードの改善、ASEAN との自由貿易協定の包括的なマッピング作業を通じて ASEAN を支援していることを称賛した。
7. 閣僚達は、ERIA がその他の重要な分野に取り組む余地があることを確認し、ERIA が研究活動をその他新興分野、例えば地域の持続可能な成長・繁栄に対する今後の経済的課題に拡大することを促した。閣僚達はまた、ERIA の研究と、EAS の政策目標を組織的に一致させることの重要性を強調した。これは、政策担当者と ERIA 研究者との連携を通じ、例えば研究テーマに関する意見交換や、政策担当者からの ERIA の研究・分析に対する定期的なフィードバックなど実質的な活動を行うことで実現ができる。閣僚達は ERIA への継続的な支援及び貢献に期待を表明し、ERIA が研究活動や政策提言を通じ、ASEAN 及び東アジア地域における経済統合及び共同体形成に更に効率的に貢献していくことに期待した。閣僚達は、ASEAN 各国、インド、日本、NZ による ERIA への貢献を感謝した。

地域及び世界経済の発展

8. 2015 年の ASEAN 経済共同体の実現に向けた支援を再確認しつつ、閣僚達は、ASEAN が 2015 年以降、グローバル・サプライチェーン・ネットワークへの参加を拡大し、経済統合を深化させていく重要性を強調した。この観点から、閣僚は、第 6 回 EAS の ASEAN 連結性宣言の効果的な実施への支援を再確認し、ERIA による ASEAN 連結性調整委員会 (ACCC) および ASEAN 事務局へのさらなる支援を期待した。
9. 閣僚達は最近の、地域・世界貿易・経済に影響を与えるような変化について意見交換した。閣僚達は、世界経済の不透明性および貿易取引を維持することの重要性を踏まえ、マンデートに沿ってドーハ・ラウンドを妥結するよう、斬新で信頼性のある異なるアプローチを見つ

ける努力を継続することを促した。閣僚達は7月の WTO 一般理事会における、後発開発途上国が WTO に加盟するための手続きを合理化する決定を歓迎した。これは、後発開発途上国が多角的貿易体制において利益を享受するための重要な一步であった。これは、多国間貿易交渉が機能することを思い出させる時宜を得たものでもあった。閣僚達は、ドーハ開発イシューを進める取組の一環として、貿易円滑化及び開発関連アジェンダ等を含む進展が見られる分野において成果を見つける重要性を改めて強調した。閣僚達は WTO に体现される多角的貿易体制の価値、中核性及び優位性を改めて表明し、第8回 WTO 定期閣僚会議の成果文書である「政治的ガイダンスの要素」を実行するために一層努力していくことに合意した。

10. 閣僚達は、改めて保護主義に対抗し、貿易・投資に影響する措置の現状維持を支持することを表明した。このため、閣僚達は、投資、物品・サービス貿易に対する新たな障壁を設けること、新たな輸出制限を課すこと、又は輸出刺激措置を含む全ての分野における WTO と非整合的な措置を実施することを控えること、既に導入された貿易歪曲的又は保護主義的な措置を是正すること、WTO の規定と整合的と考えられるとしても重大な保護主義的影響を及ぼすような措置の実施を最大限抑制し、そのような措置が実施された場合には速やかに是正することに合意した。
11. 閣僚達は、156 番目の加盟国となるロシアの WTO への加盟を歓迎し、ロシアの WTO 加盟が世界貿易及びロシアの経済発展にもたらす利益を強調した。ロシアの WTO への加盟により、世界貿易の 97% が WTO 加盟国によりもたらされる。閣僚達は、2012 年のラオスの WTO 早期加盟への支持を改めて表明した。
12. 閣僚達は、ロシアがウラジオストックで9月に開催する APEC 首脳会議の準備状況を留意した。閣僚達は特に、ロシアが APEC 議長として優先分野として特定した、(i) 貿易投資の自由化・地域経済統合、(ii) 食料安全保障の強化、(iii) 信頼できるサプライチェーンの構築および (iv) 革新的成長のための緊密な協力を留意した。閣僚達はウラジオストック会合で成果を出すべく共に協力し、2011年に首脳が約束した APEC 環境物品の税率引き下げの元となるリストの作成について、首脳からの指示を満たすべく、すべての資源を投入することに合意した。閣僚達は、より広域の経済統合と、アジア太平洋地

域における貿易・投資の自由化、円滑化を促進し、引き続き APEC とこれらの目標を達成できるよう連携していく決意であることを表明した。閣僚達はまた、不安定な世界経済の中で、長期的な経済成長を達成する措置について意見を交換した。地域における持続可能な成長を促す観点から、閣僚達は、2013 年春にカンボジアと日本が共催する第 2 回低炭素成長パートナーシップ対話への協力を再確認した。閣僚達はまた、人材育成の分野や低炭素技術・製品のより広い活用の分野において、協力の必要性を再確認した。

13. 本会合で議論されるすべてのアジェンダに関連し、閣僚達は民間部門からのインプットの重要性を共有し、将来、ASEAN ビジネス投資セミナー等既存の枠組みを活用しつつ、ビジネスからのインプットをさらに得ることを模索することで合意した。

閣僚リスト

1. グレイグ・エマーソン貿易大臣、豪州
2. リム・ジョク・セン第2外務貿易大臣、ブルネイ
3. チャム・プラシット商業大臣、カンボジア
4. 陳徳銘・商務部長、中国
5. アーナンド・シャルマ商工大臣、インド
6. ギタ・ウィルヤワン商業大臣、インドネシア
7. 枝野幸男経済産業大臣、日本
8. パク・テホ通商交渉本部長、韓国
9. ナーム・ヴィニヤケート商工大臣、ラオス
10. ムスタパ・モハメド国際貿易産業大臣、マレーシア
11. ティン・ナイン・テイン国家計画経済開発大臣、ミャンマー
12. ティム・グローサー貿易大臣、ニュージーランド
13. グレゴリー・ドミンゴ貿易産業長官、フィリピン
14. アレクセイ・リハチョフ経済発展省次官、ロシア
15. リム・フンキャン貿易産業大臣、シンガポール
16. ブンソン・テリヤピロム商業大臣、タイ
17. ロン・カーク通商代表、米国
18. グエン・カム・トゥー商工副大臣、ベトナム
19. スリン・ピッサワン事務総長、ASEAN事務局
